

教員養成支援センター

だより

第38号

2025年10月24日発行
編集・発行：名桜大学教員養成支援センター
所在地：沖縄県名護市字為又1220-1

商業高校におけるSDGs教育の実践

会計におけるSDGs教育の課題について、商業高校において損保ジャパンが実施した「The Action!～SDGsカードゲーム～」を通じた調査・考察を会計教育学会で報告する機会を得た。

このカードゲームは、参加者が企業としてSDGsの17目標達成を目指し、お金と時間を使ってプロジェクトを実行しながら、2030年までの道のりを体験するものだ。ゲームでは、各チームが設定されたゴールを目指す一方で、地域全体の経済・環境・社会のバランスを保つことが重要となる。ゲームの進行中、参加者は自チームの目標だけでなく、地域全体の状況を考慮した協力の重要性を実感する。ゲームはターン制で行われ、他のチームとの交渉や、地域状況メーターの確認・発表を通じて、全体での達成意識を高める仕組みになっている。

農林業者としてのゴールは、「新しい技術や人を導入するなどして、農産物の売上を拡大させる」であり、達成条件は「ゲーム終了時にお金を1200G以上残す」ことである。ゴール達成のために、「お金」と「時間」を用いて「プロジェクト」カードを実行する。活動により新たな「お金」、「時間」や「プロジェクト」カードを獲得することができる一方、地域の状況も変化する。地域の状況は「経済」、「環境」、「社会」の3つのメーターで計られる。「交通・公共交通サービスの強化」というプロジェクトには、お金600Gと時間3が使われる。プロジェクト実行により、お金300Gと新たなプログラムを獲得することできる。また、経済メーターが1つ減少し、社会メーターが1つ増加することになる。他にも、「施設の男女共用化を推進」、「新型ウイルスの特効薬開発」など様々なプロジェクトが用意されている。

高校現場でこのプログラムは、総合実践等の会計科目以外で導入されている。教員のインタビュー やカードゲーム受講生のアンケートを踏まえると、SDGs教育を会計分野に導入する可能性として、非財務情報の開示に関する授業設定や原価計算におけるコスト削減の考え方方が挙げられる。企業がどのようにして環境や社会への影響を最小限に抑え、持続可能な成長を実現しようとしているのかを、財務情報とともに非財務情報も含めた形で開示する方法について学ぶことが考えられる。財務会計の教科書に非財務情報の開示に関する章を設定し、1コマ程度授業設定することが、教員の負担も考慮した効率的な会計分野におけるSDGs教育の一例となる。また、原価計算の分野においても、持続可能な企業経営を実現するためのコスト削減に焦点を当てた授業設定が考えられる。単にコスト削減を追求するのではなく、製造プロセスにおけるエネルギー消費や廃棄物の削減を、原価計算の視点からどのように実現できるかを学ぶことが考えられる。

このように財務会計や原価計算のような会計分野にSDGsの要素を導入することにより、SDGsの目標12「責任ある消費と生産」に貢献する会計教育の実現が可能である。また非財務情報の開示や持続可能なコスト削減の考え方を通じて、環境、社会、経済に関する多角的な視点を提供し、持続可能な社会の実現に向けた複数のSDGs目標に対する理解や意識を深めることが期待される。

国際観光産業学科
教授 仲尾次 洋子

～教育・養護実習生の声～



人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

山下 愛莉 (やました あいり)

教育実習校：今帰仁村立今帰仁中学校（保健体育）

私は6月16日～7月9日の期間、今帰仁村立今帰仁中学校で教育実習を行わせていただきました。教育実習を通して、「生徒とどう向き合うか」が授業や学級づくりの根幹であると実感しました。笑顔で声をかけ、話を丁寧に聞くことで信頼関係が築かれ、対話を通じて主体的な学びが生まれることを学びました。授業の導入での雑談や見学者への

役割付与など、生徒全員が安心して参加できる工夫の大切さを感じました。中学生の繊細な心に寄り添い、具体的な言葉で伝えることで理解と安心につながることも実感しました。人前で話すことに苦手意識があり、声が震えた場面もありましたが、生徒が「先生、がんばれ！」と声をかけてくれたことが励みになりました。完璧を目指すより、自分のペースで前向きに取り組むことが大切だと感じています。失敗や悩みもすべてが学びであり、生徒や先生方との出会いがその成長を支えてくれました。この経験を今後の成長につなげていきたいです。

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

宮城 希望 (みやぎ のぞみ)

教育実習校：那覇市立城南小学校（養護）

約15年ぶりに母校である城南小学校で養護実習を行いました。まず、保健室経営では児童の救急処置や心理的なケアにあたりました。

来室した児童の優先順位の高さを判断しながら、適切かつ迅速に対応にあたることの難しさに直面した時には、何度も自身の力不足を実感しましたが、対応した児童がすれ違いざまに「ありがとうございました」と元気に挨拶してくれた時の喜びはひとしおでした。

また、保健指導で行ったブラッシング指導では、低学年の児童を担当し、エプロンシアターを用いて主人公のかばくんと子ども達と対話をしながら、歯ブラシをする事の大切さをストーリー形式で伝えました。実際に歯の染め出しを行い、歯の汚れを視覚化させながら、歯磨きのポイントを楽しく学べるよう意識しました。その後も、児童とそれ違うたびに「歯の王様の先生だ」「歯磨き頑張ってるよ」と笑顔で話してくれる児童を見ると、大きなやりがいを感じる瞬間でもありました。

教科書だけでは学ぶことのできない大きな学びと、児童の心と身体の健康を支え、笑顔に戻るまでのお手伝いをする素敵な職業であると実感した実りある実習となりました。

～ボランティア活動に参加した学生の声～

国際学部 国際観光産業学科 2年次

知念 莉子 (ちねん りこ)

ボランティア先：国頭村立国頭中学校

国頭村立辺土名小学校（地理歴史）

国頭中学校での部活動支援では、経験の異なる部員との関わり方や声かけの工夫が大変勉強になりました。部員数が少なく、人数不足による継続の難しさも実感し、教員との関わり方の重要性を改めて感じました。辺土名小学校では、学年を越えて交流する「なかよしタイム」や、自然と

触れ合える環境が印象的で、のびのびと学べる姿に感銘を受けました。集中力に差のある児童への声かけや促し方なども学びとなりました。また、教員を目指すにあたり、生徒が楽しみながら学習力を高められるよう、モチベーションを引き出せる先生を志しています。授業以外でのコミュニケーションや休み時間での関わりが、生徒の学生生活に役立つことを実感でき、理想の教員像をより具体的に描くことができました。今回の経験を今後の大学での学びや将来に活かしていきたいです。国頭村役場、国頭中学校、辺土名小学校の皆様に心より感謝申し上げます。

人間健康学部 スポーツ健康学科 3年次

前沢 巴菜 (まえざわ はな)

ボランティア先：名護市立屋部小学校（保健体育）

私は今回、屋部小学校の水泳学習において、安全管理のボランティア活動に参加しました。その中で、生徒一人一人に合った指導法や支援の仕方、声掛けの重要性を学ぶことができました。

水泳は、得意・不得意が大きく分かれる競技であるという認識は、活動前から持っていましたが、実際に参加して

みると、水への恐怖心から顔を水につけることすら抵抗のある生徒が多くいました。そのような生徒に個別で練習を支援する中で、「できるようになりたい」という声を受け、自分がどのようなアプローチをすればよいかを考えさせられました。恐怖心を和らげながら向上心を伸ばし、「できた」という達成感につなげるにはどうすればよいかを考えることができ、将来教師を目指す自分にとって多くの気づきを得る時間となりました。

また、水泳学習は命に直結する内容であるからこそ、強い責任感や緊張感を伴います。今回の活動を通して、現場ならではの雰囲気を体感できたことは、自分にとって非常に貴重な経験となりました。